

東北視察4年目の報告

早稲田大学特命教授 伊藤 滋

復興まちづくりに関する施策



防災集団移転促進事業のイメージ

インフラの復旧・復興状況



2014年 被災地視察行程 7/19(土)～7/22(火)

- 7/19 羽田空港～三沢空港
三沢～八戸～陸上～久慈～野田～
菅代～田野畑～岩泉～田老(宮古)
浄土ヶ浜(宮古) [泊]
- 7/20 宮古市街地～山田～大槇～
釜石市街地～大船渡～
陸前高田～気仙沼(唐桑) [泊]
※ヒアリング 復興庁若手課長 藤村氏
- 7/21 気仙沼市街地～南三陸(志津川)～
石巻(長町)～石巻(雄勝)～
女川～石巻市街地～松島 [泊]
- 7/22 松島～塩釜～仙台(宮城野・若林)～
名取(南上)～岩沼～亶理～
山元～新地～相馬
※ヒアリング 名取市副市長(元・復興庁若手課長) 石塚氏



復興まちづくりに関する施策

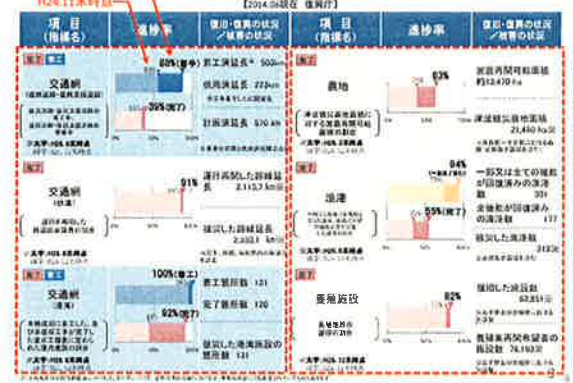
災害公営住宅整備事業
～災害公営住宅の整備～

- ・家を失った被災者に自治体が賃貸で提供する
- ・被災者の居住の安定確保を図るため、災害公営住宅の整備に係る費用を支援する

土地区画整理事業
～住宅地、公共施設の整備に加えて土地を嵩上げ～

- ・広範囲かつ甚大な被害を受けた市街地の復興に対応するため、被災市街地復興土地区画整理事業により緊急かつ健全な市街地の復興を推進する

インフラの復旧・復興状況

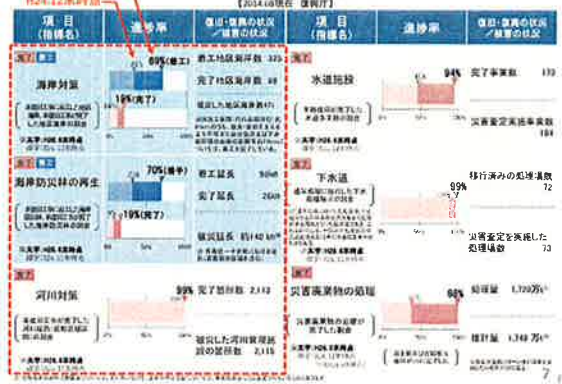


人口変化

【震災前(2011.03.01時点)と震災後(2014.03.01時点・震災3年後)の人口変化】

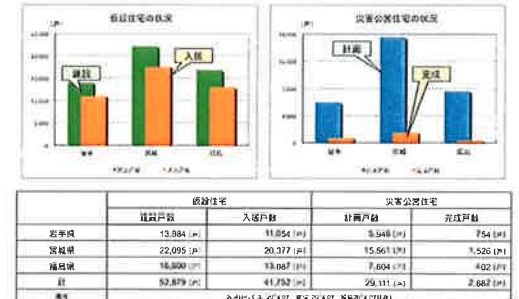


インフラの復旧・復興状況

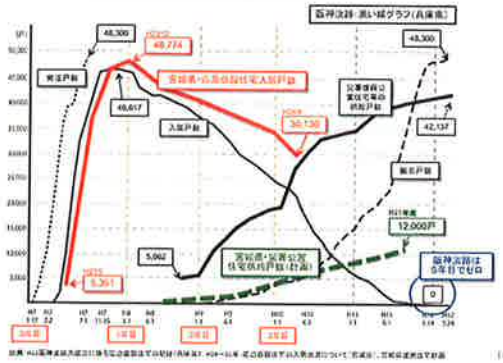


住宅供給

【2014.07現在】



阪神淡路大震災との比較
応急仮設住宅の供給スピード



視察4年目で見た まちの変化

- 防潮堤の建設・改修が加速
- 被災市街地のかさ上げ
- 住宅の移転先宅地造成(高台造成)

2011.07 久慈市

1 久慈湊小学校の津波教育の成果



「津波防災プロジェクト」(総合学習)の中で、子どもたちが個人部の庭を避難場所として提案、土地所有者とも交渉し、正式な避難場所になった。

阪神淡路大震災との比較
応急仮設住宅の建築

注目すべき 3つの地区

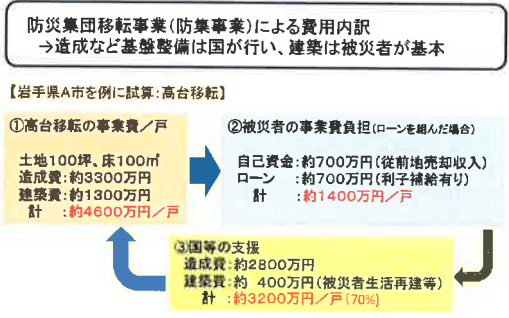
震災以前	地区の被害 (人口に対する割合)	復興に向けて	整備状況
荒浜地区 (仙台市)	・昔ながらの集落 ・漁業、農業 (死亡率)7%	内陸造成地へ 集団移転 (東北東部移転促進事業など) ※現地再建を目指す動きも	造成工事中 一部引渡開始
野蒜地区 (東松島市)	・仙台圏のベッド タウン、観光地 ・漁業、農業 (死亡率)13%	高台造成地へ 集団移転 (防災集団移転促進事業など)	造成工事中 (2015年完了予定)
閉上地区 (名取市)	・仙台圏のベッド タウン ・沿岸漁業 (死亡率)13% ※当時在宅者では 20%とも	行政vs市民 現地復興vs移転復興	かさ上げ工事 (一部)

2011.07 久慈市 久慈湊小学校

4 小学校から高台の避難場所までの通路の拡幅・舗装



(参考)高台移転の事業スキーム事情



被災地の4年目

2011.07 普代村 普代水門

1 普代水門(普代川を渡る津波を阻止)



高さ15.5m
管理用通路の落下はあったが
上流側市街地の浸水被害なし

2014.07 普代村 普代水門

4 管理用通路の復旧が終了



2014.07 田野畑村

4 "ここから過去の津波浸水区間""ここまで過去の津波浸水区間"の標識



2014.07 宮古市 田老地区

4 田老地区
土地区画整理事業
完成予想図

X型の堤防は交差部を分離し2重堤防に
堤防より海側は非可住地として水産養用地・公園に



この図は完成イメージです。
実際とは異なる場合があります。

2011.07 普代村 太田名郎地区

1 津波から集落を守った防いだほぼ唯一の防潮堤

防潮堤の高さ15.5m
(軽道によれば津波は14mの高さまで到達)



2014.07 田野畑村 羅賓荘

4 津波被害(3階まで浸水)から改修工事を経て営業を再開した海辺のホテル



2012.08 宮古市 田老地区

2 従前の防潮堤より高くして再建(10m→14.7m)



2012.07 普代村 太田名郎地区

4 守られた防潮堤の境内と、被害を受けた堤外



2005.07 宮古市 田老地区

0 震災前の田老地区の航空写真



2014.07 宮古市 田老地区

4 従前の防潮堤より高くして再建(10m→14.7m)



2014.07 宮古市 田老地区

4 防災集団移転促進事業による高台造成



2014.07 宮古市 田老地区

4 少しでも快適になるよう工夫された仮設住宅



2014.07 山田町 大沢地区

4 大沢地区の整備計画図



2011.07 宮古市 田老地区

1 防潮堤を乗り越えた津波により、壊滅的な被害を受けた市街地



2011.07 山田町 大沢地区

1 8mの津波が襲い、壊滅的な被害を受けた大沢地区を一望



2014.07 山田町 大沢地区

4 震災の4ヶ月後から営業するRC造の商店(4度目の訪問)



2014.07 宮古市 田老地区

4 かさ上げが始まった市街地



2014.07 山田町 大沢地区

4 手前のかさ上げ、海側は防潮堤の整備を予定



2012.08 大槌町 町方地区

2 津波と火災により被害を受けた建物が取り壊され、寺の本堂はプレハブに



2014.07 大槌町 町方地区

4

・宅地ではかさ上げが始まる(盛土高2.5mを予定)



2014.07 大船渡市 市街地

4

・宅地のかさ上げが始まる



2011.07 陸前高田市 市街地

1

・市街地は全域で壊滅的被害



2014.07 大槌町 町方地区

4



2014.07 大船渡市 市街地

4

・宅地のかさ上げが始まる



2014.07 陸前高田市 市街地

4

・高台から市街地を見渡す



2012.08 大船渡市 市街地

2

・仮設商店街(大船渡屋台村)の営業が開始



2014.07 大船渡市 市街地

4

・津波により流出した線路敷を利用したBRT専用道



2014.07 陸前高田市 市街地

4

・高台造成地から土砂を運んでくるベルトコンベア



2014.07 気仙沼市 気仙沼漁港

4 カツオなどが水揚げされ、活気が戻ってきた気仙沼市場



2014.07 南三陸町 志津川

4 防災庁舎の向かい側では宅地がかさ上げ



2014.07 石巻市 市街地



2014.07 気仙沼市 気仙沼漁港

4 防潮堤の高さは様々な場所で開催されている



2007.02 南三陸町 志津川

0 震災以前(2007年)の志津川



2014.07 石巻市 新蛇田地区

4 畑だった地区に1,460戸の新市街地ができる



2014.07 南三陸町 志津川防災庁舎

4 解体か保存か、宮城県震災遺構有識者会議にて協議中(2015年3月まで)



2014.07 南三陸町 志津川

4 現在(2014年)の志津川



2014.07 南三陸町 藤浜団地

4 高台達成した防災事業として、被災3県で最初に竣工(10戸)



2012.08 石巻市 北上川河口(長浜地区)

2 地盤沈下により、水没した集落と農地



2014.07 女川町 女川地区

4



2014.07 女川町 女川地区

4 災害公営住宅の整備



2014.07 石巻市 北上川河口(長浜地区)

4 排水し農地を復旧



2014.07 女川町 女川地区

4



2011.07 東松島市 野蒜地区

1 壊滅的被害を受けた海寄りの住宅地



2011.07 女川町

1 約20m(建物5階まで到達)の津波により転倒したビル



2014.07 女川町 女川地区

4 市街地のかさ上げ



2014.07 東松島市 野蒜地区

4 住宅地とJR仙石線を内陸の高台へ移転



2014.07 東松島市 野蒜地区

4

・広大な高台造成地



64

2014.07 仙台市 荒浜地区

4

・平野部で最大級の10mの津波に襲われた荒浜地区

住民は内陸へ集団移転を希望、移転先の造成も一部完成



67

2014.07 名取市 関上地区

4

・関上漁港の名物朝市を復活させる商業施設“メイブル館”



70

2014.07 東松島市 野蒜地区

4

・内陸の高台造成地から仮置き場まで土砂を運ぶベルトコンベヤー



65

2014.07 仙台市若林区 荒浜地区

4

・かつての荒浜の風景、津波が襲った際の写真を展示



68

2014.07 岩沼市 玉清西地区

4

・防災集団移転促進事業による宅地引渡が完了し、住宅の建設ラッシュ

岩沼市は住民WSで都市街地の街づくりを行い、宮城県内でも議員が密んでいる



71

2014.07 東松島市 野蒜地区

4

・JR仙石線の復旧(2015年中)



66

2014.07 名取市 関上地区

4

・関上地区の4年間の移り変わり(日和山より一望)



69

2011.07 山元町

1

・駅舎と線路が流出したJR常磐線 坂元駅



72

2014.07 山元町 新山下駅周辺地区

4 常盤線を内陸に移転、新市街地を整備



施工面積: 約38ha(災害公営住宅440戸、戸建住宅270戸)

2014.07 山元町

4 再建したイチゴのビニールハウス



津波で壊れたイチゴのビニールハウスが被害

2014.07 相馬市 馬場野地区

4 被災した高齢者が共同生活を送る災害公営住宅(井戸端長屋)



2014.07 山元町

4 連棟式を採用した災害公営住宅



2階建てまでと申し込めり、様々な世帯構成が入居するよう工夫

2011.07 新地町 新地駅周辺地区

1 壊滅的な被害を受けた新地市街地(町役場から一望)



2014.07 相馬市 馬場野地区

4 災害公営住宅(井戸端長屋)

7-10-10

1. 6世帯の棟が並ぶようにし、奥行き一杯に居住スペースを確保し、廊下を広く確保し、高齢者の移動を容易にする。
2. 2階建ての災害公営住宅とし、エレベーターを設置し、ランドリースペースの併設を確保し、団体の入り易い。
3. 15㎡の共用スペース、団体の集まりやすい。
4. 高齢者専用シェアリング(生活支援、高齢者トイレ改造)。
5. 全戸バリアフリー、団体の移動が容易に確保。
6. 高齢者が安心して生活できる環境を確保。
7. 高齢者が安心して生活できる環境を確保。
8. 高齢者が安心して生活できる環境を確保。
9. 高齢者が安心して生活できる環境を確保。
10. 高齢者が安心して生活できる環境を確保。
11. 高齢者が安心して生活できる環境を確保。

2014.07 山元町 新山下駅周辺地区

4 災害公営住宅第2弾



2014.07 新地町 新・新地駅周辺地区

4 新地駅を内陸移転し、かさ上げ(23.7ha、4m)(町役場から一望)



2013.10 南相馬市 小高地区: 避難指示解除準備区域

3 無人のJR常磐線小高駅前(原発20km圏内)



2017.10
3

浪江町 浪江町・帰宅困難区域

・帰宅困難区域(浪江町)への立入を制限する検問(国道6号)



(再掲)視察4年目で見えた まちの変化

防潮堤の建設・改修が加速

被災市街地のかさ上げ

住宅の移転先宅地造成(高台造成)

終